臨川小だより

３月号

令和６年３月１日
渋谷区立臨川小学校

３月　感謝とおかげさま

校長　河口尚志

梅の香りがあちらこちらで漂うようになりました。
近くの梅園を歩くと、淡いピンクや白の花びらが枝いっぱいに咲き、遠くからでもその美しい景観をアピールしています。視覚、嗅覚を楽しませてくれる、この時期ならではの贅沢さを味わうことができます。

３月に入りました。３月は今年度のまとめです。今までの学習や生活のまとめを通して、１つ１つの成長を確認するときでもあります。何を学び、何ができるようになったか、それらが次の学びに生かされることが大切です。

「かけ算九九全部覚えたよ。」「シブヤ未来科で自分の考えを発表できました。これから自分でできることをやっていきたいです。」「体育の跳び箱で開脚跳びができるようになった！手の付き方を３ 回練習したらできた！」「ケンカした友達とちゃんと話し合って仲直りできました。」「係活動をがんばって、新聞を書いたり、クラスみんなで遊ぶ日を提案したりして一緒に遊べました。」「代表委員会で、『友達にやさしく大作戦』を考えて、学校全体に呼びかけることができてよかった。もっともっと広めていきたい。」「なかよし班遊びでは、みんなの意見をまとめて、班で遊びを考え、楽しく活動できました。」などなど、個や集団の努力で、成果を上げることができました。きっと次の学年につながっていくことでしょう。各教科での学習や生活面での成長を、家庭と学校・クラスの双方で確認をしたいところです。

さて、この時期、毎年思うことがあります。
それは、「感謝」と「おかげさま」です。

「『感謝する心』は、人間社会のなかで心穏やかに生きる最高の発明品である。」

これは、精神科医であり、作家である斎藤茂太さんの言葉です。人は常に人と接し、生きています。多くの人の支えの中で生きています。それが目に見えるものと目には見えない、つまり相手が見えないものがあります。大切なのは、人やものなどの相手に、感謝する心をどうもつかです。

大人も子供も、相手に感謝の気持ちをもち、そのことを表すことが大切だと考えます。

言われた相手も、「こちらこそ、ありがとうございます。」「おかげさまで」と答える、この感謝と謙虚さが人の心を美しくし、心穏やかに生きることができます。その気持ちを常にもち続けたいと願います。

職場、ご近所、友人、地域、学校など、自分の身の回りをふり返り、今ここにいる自分を見つめ、自分でいることにも感謝、おかげさまの気持ちでいたいものです。

子供たちには、我々大人がいろいろな機会に示し、導くことが必要です。

残りひと月、どうぞよろしくお願いします。